

令和4年度 三校合同課題研究発表会（1・2年探究科学科）

令和4年12月18日（日）、探究科学科のある富山高校、富山中部高校、本校の三校による課題研究発表会が、富山県高岡文化ホールで開催されました。三校の探究科学科1・2年生と教職員が参加しました。

外は今年初めての本格的な降雪・積雪でしたが、アットホームな雰囲気の中、活発なやりとりが繰り返されました。

開会式の後、三校の代表班が順にステージ上で発表しました。富山高校は地歴公民2班が「富山って意外とすごいらしいよ～富山の独自性とまちづくり～」を、富山中部高校は数学1班が「富山市の電力網とグラフ理論～安全性と効率性～」を、本校は物理1班が「射的無双～最も遠くに飛ばすには～」をテーマに、プレゼンテーションを行いました。

発表後の質疑応答では、研究方法や研究結果に対して、科学的研究としての妥当性を確認する質問が次々と出され、質問者に対しても称賛の拍手が送られました。

午後からは、54班が各2回、交代でポスターセッションを行いました。発表者は、研究の成果を、ポスターだけではなく、タブレットや自作の資料等を用いて、熱心に発表していました。大学・高校の先生のみならず、高校生からも鋭い質問が多く出され、新たな気づきや刺激を得る貴重な機会となりました。

閉会式ではまず、各校代表生徒による感想発表がありました。コロナ禍においても課題研究が実施できたことや共に高め合える仲間への感謝とともに、知的好奇心を育む課題研究の活動を今後もさらに深めていきたいという決意が述べられました。

最後に、理系分野は富山大学工学部の瀬田教授、人文系分野は富山大学芸術文化学部の有田准教授から講評をいただきました。

本年度は本校が事務局校となっており、前日の準備や当日の片付け、開・閉会式の司会進行など、本校生徒が中心となって会の運営にあたりました。それぞれが立派に役割を果たしてくれ、成功裏に終わることができました。

<生徒の感想>

- ・課題研究は、学校での勉強にとられない自由な勉強だと感じた。ポスターセッションでは自分の知識の乏しさや考えの甘さを感じたので、日頃から周りのことに興味を持っていきたいと思った。（1年）
- ・内容を理解するのに精一杯で一度も質問ができなかったのがとても悔しい。自分が一年後、本当にこんなことができるのかと不安になるが、まずは自分の興味のあることを探してみたい。（1年）
- ・身近なものから課題を発見する力、そして、それらをさまざまな観点や理論を用いて結論を形作っていく力がすごいと思った。他の人の視点を通すことで、自分一人では好奇心を持てなかったであろうことにも興味を持つことができた。来年、自分たちの発表で見てくれた人々の「知的好奇心」を刺激したいと思った。（1年）
- ・多くの論文や本を読んで、「仮説→検証→考察→新たな仮説→…」のサイクルを繰り返し、自信を持って発表できた。最後の結論を明確にして校内発表会に臨みたい。（2年）
- ・「じゃんけん」や「富山弁」など実生活と紐付けて考えることができるテーマが多く、興味を持って聞くことが



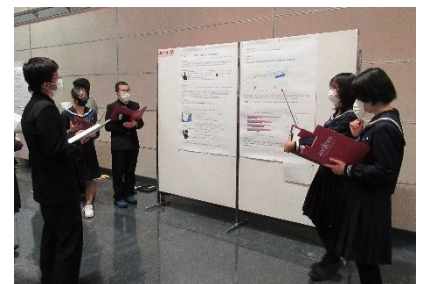
学校代表発表物理1班の発表の様子



歴史班の発表
「ハワイの海の日系移民～ツナ缶会社のエピソードから～」



化学2班の発表
「落としたい、その汚れ。～単一脂肪酸による洗浄力の違い～」



英語2班の発表（英語）
「The Power of Language」

できた。自分たちの研究も、もう少し実生活での応用を意識したものにしていきたい。(2年)

- 原稿を見ず聞き手の状態を確認しながらのプレゼンに好印象を持った。質問時にすぐに示せるスライドを用意しておいたり、発表を参加型にしたりする工夫も見られ、校内発表会ではできる限り取り入れたいと思った。

(2年)